

林業が森林環境と暮らしを守る...
100年先を見据えた森林づくり

林業が森林環境と暮らしを守る!



手入れされない林内は真っ暗



人工林の外観

林業の低迷

林業は今、全国的な森林の所有者の山離れや働き手不足からスギやヒノキなどの人工林の適切な管理が進まず、森林環境や暮らしにも影響が出ています。このため、国では、市町村が独自に森林整備を進めるため、森林環境税の制度を導入しました。

今回の特集は、林業の現状と、森林環境税の制度を活用して市が進める100年先を見据えた森林づくりについて、私たちにできる森林づくりと一緒に始めませんか？

市全体の面積の約2割にあたる約450km²の人造林がつくれました。

しかし、木材価格が下がるにつれ、森の所有者の意欲が薄れ、自分の山の場所や境界が分からぬといつた「山離れ」が進んでいます。そのため、現在では人工林の約半数で適切な管理が行われておらず、管理する働き手も不足し、市の林業は低迷しています。

森林力も低下 暮らしに影響も

人工林は、木を間引く「間伐」という手入れを行わないと、木々が密集し、森林内に光が届かず下草も生えなくなります。そうなると「森林のチカラ（3ページ参照）」が弱まり、洪水や土砂崩れ、倒木被害、獣害など、私たちの暮らしに影響が出ます。

見据えた森林づくり 100年先を

市では、森林環境や市民の暮らしを守るために、森林所有者や林業を営む事業者と連携し、適正な森林管理を進めています。また、皆さんに森林や林業の大切さ、木の良さを理解していただきながら、災害に強い森林づくりや市産材の利用、林業を支える人づくりを、100年先を見据え取り組んでいます。



森林のチカラ

①地球環境を守るチカラ

二酸化炭素を吸収して地球温暖化を緩和したり、空気や水を浄化したりする働きがあります。また、多くの動植物の命を育みます。



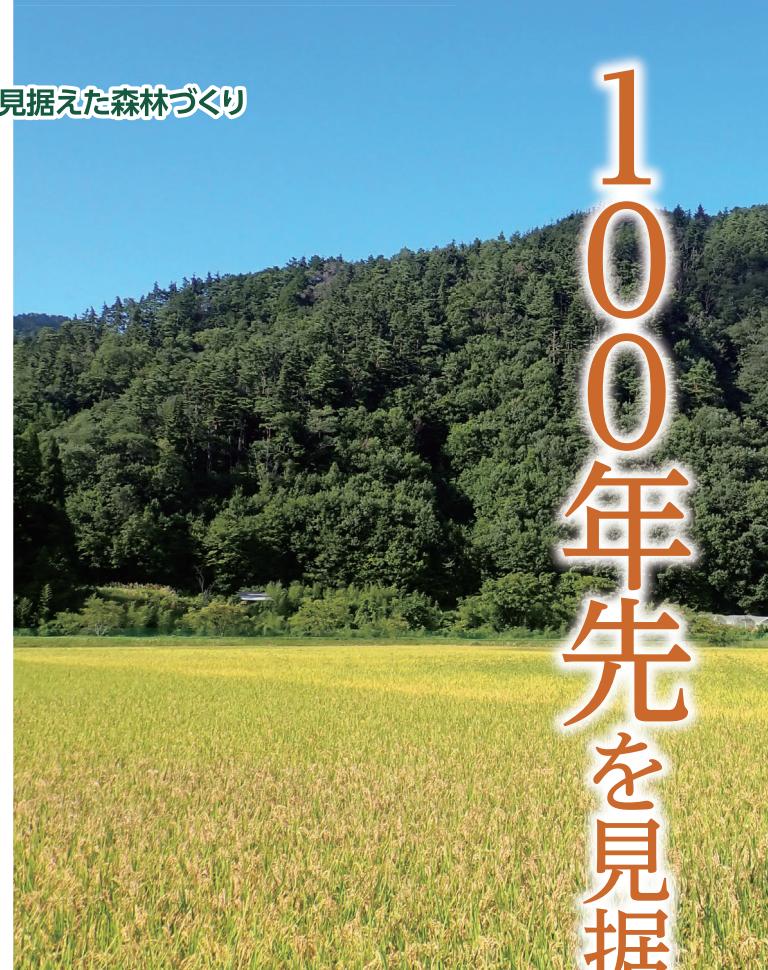
②災害を防ぐチカラ

木の根が土や石を捕まえ、土の上に落ち葉があることで、雨水を落ち葉が受け止め、落ち葉や土がスポンジのようにゆっくり吸収し、山崩れや急な川の増水などを防ぎます。



③人を生かすチカラ

人が生きていくうえで欠かせない酸素や清らかな水、建築用材や紙など生活を便利にする木材、森林浴や登山などの癒しなど、人を生かすチカラを持っています。



適正に手入れ(間伐)された人工林

〔問合せ〕林務課 03-3143-3535

森林環境譲与税の市への配分状況	
年度	金額
H31	7186万円
R2	1億5271万円
R3	1億5066万円
R4~	1億9700万円
R6~	2億4000万円

国は、市町村の森林整備などに必要な財源を安定的に確保するため、「森林環境税」として令和6年度から国民一人あたり年額1,000円の徴収を始めます。そして、その収取を「森林環境譲与税」として都道府県・市町村へ配分します。配分は、平成31年度から前倒しで実施され、市では100年先を見据えた森林づくりの取り組みに活用しています。用途の詳細は4.5ページや市HP(QR)をご覧ください。

**令和6年度から
森林環境税の徴収が始まります**

